

学社(学校と社会)融合を目指して —千葉県習志野市立鷺沼小学校から学ぶ—

林 明夫

鷺沼小では、朝9時から夜9時まで土、日も学校の空教室の民間開放をすすめている。

1. 授業以外でも、地域の人による子どもとの交流がある。

- (1)「学校という聖域」で大人と子どもが活動する学社融合は、世代間交流による街づくりそのもの。ここに、地域再生・教育改革の鍵がある。
- (2)技術を持たない人でも自由に参加できるので、若い父親や母親が子どもと共に参加して、高齢の人と共に活動する。
- (3)例えば、鷺沼小の「おやじの会」によるヤキイモ会では、廃材を切ったり薪割りをするところから始まる。子どもたちは、6年生になるまで「まさかり」は使わせてもらえない。これは、鷺沼小の「おやじの会」の厳しい約束だ。

2. 鷺沼小の授業事例

- (1)技術を持っている人は、生き甲斐(がい)を持って小学校の学社融合活動に参加する。
 - ①高齢者の生き甲斐は、人々への役立ち感を持ちながら生き続けること。街で子どもたちに出会ったときに、声を掛けられたりすると無上の喜びとなる。
 - ②高齢者は、「技術がある」「時間がある」「子どもの学びのペースで待つことができる」。
- (2)高齢者は、経験がある。
 - ①それを語れる場があることで、役立ち感となる。
 - ②戦争体験の語り授業。今は病氣療養中だが、枕元には子どもからの感想文がある。「来年も6年生に語れるように、元気にならなくちゃ！」と療養に励んでいる。
- (3)授業は、学校生活で一番重要なもの。
 - ①校長も、率先して授業研究を行うとよい。
 - ②担任以外の大人が日常的に教室に来るといふ雰囲気が当たり前になる一方で、授業を大切にす校内の緊張感が高まる。
 - ③ボランティアによる放課後の授業も。「陶芸」は、大人も楽しみ。
 - ④無理のない範囲で子どもとの触れ合いが活発に行われることは、地域で共に生活する大人(特に高齢者)にとって喜びとなる。

3. 安全を守る

- (1)日常的な活動の積み上げを通して、学校からの「子どもを守ろう」という呼びかけにも、地域はすぐに反応する。
- (2)自分の孫が通う学校、自分の子どもが通った学校は、「おらが街の学校」そのものだからだ。

4. 街づくりのための「人材」についての3つの考え

- (1)学校へ来てくれる、能力ある大人。
—学校へ来てくれること自体が、能力と考える—
(人材バンクとして固定するのではない)

- (2)ただ学校で子どもと共に過ごす大人
 ー大人の後ろ姿を、子どもに見せたいー
- (3)子どもこそ「人材」ということが、街づくりの過程でわかってきた
 ＊子どもの安全に関する参加は、街づくりの意識を形成するのに取り掛かりやすい

5. 学社(学校と社会)融合の大きな成果

- (1)このような活動が継続されてくると
 - ①教育内容が充実し、子どもの学校生活が豊かになる。
 - ②大人の喜びになり、地域活動が積極的になる。
 - ③コミュニケーションの幅が広がり、人間関係作りの能力が育成できる。
 ＊今の充実とこれからの育成に意義がある。
- (2)このように、学校と地域の融合は、学校開放という視点だけでなく、人と人との結びつきによる「教育の充実」と「街づくり」の視点で考えられる。
 - ①地域にいる多様な能力を持つ大人と子どもが結びついで街づくりとなっていけば、どのようなことでも推進できる。
 - ②自分の住む街をよりよくしたいという願いは、すべての人が持っているから。
 - ③その中核に、子どもがいる。

6. 「できる人が、できる時に」「無理なく」「楽しく」、これが連続していける学社(学校と社会)融合の秘訣

- (1)活動を共にした子どもを知っている大人が地域にいるので
 - ①成長して、中・高校生になったあとも
 - ②放課後や休日にも
 地域の人が子どもを見守ってくれる。
- (2)教師には、その地域からの転勤があるが、地域の多くの人は転居しない。
- (3)コミュニケイスクールは年間 200 日×8 時間だが、スクールコミュニティは年間 365 日×24 時間。
 - ①教育内容が充実し、街づくりが推進され、子どもは元気になる。
 - ②子どもが、自分の家族以外に信頼できる大人や家族が地域にいること。
 - ③親もまた、地域の家族に目を向けられるように。

7. 原風景が人間形成に及ぼす影響は大である

以上の内容は、宮崎稔大妻女子大学非常勤講師、前鷺沼小学校校長からお伺いしたものである。
 (文責、林明夫)

実質上財政破綻している中で、高額な税金を使って建設した学校設備が、少子化のため児童・生徒数が減少して十分に使われない状況にある。社会に開放して、公共財の有効活用を図るべきである。

また、学校教育の抱える問題が多岐・複雑で、学校だけでは解決不可能な場合も多い。この学社融合の取り組みは、検討に値すると確信する。

＊ 2007 年 8 月 24 日(金) 13:00 ～ 14:30
 日本工業倶楽部 5 階第 6 会議室
 経済同友会規制改革委員会
 教育分科会第 2 回委員会
 「学校教育の現状と今後の課題」
 講師：宮崎稔大妻女子大学非常勤講師
 (前千葉県習志野市立鷺沼小学校校長)